

大洲市を守る消防団員の活動や取り組みを、シリーズでご紹介します。

消防団員確保キャラバン事業を実施します

～愛媛県消防協会～

愛媛県消防協会では、消防団員を確保するため「消防団員確保キャラバン事業」を実施することとなり、県内20市町の消防団長ら約50人が参加し9月2日(水)、県庁議事堂前において出発式を行いました。



決意表明を行う土居会長

出発式では、愛媛県知事からのメッセージが各支部業務執行理事へ手渡され、愛媛県消防協会土居会長が決意表明を行いました。県内の消防団員数は、少子高齢化や団員のサラリーマン化などの影響により、年々減少傾向にあります。

大洲市消防団においても、平成26年度より機能別消防団員制度を導入し団員確保に努めておりますが、減少傾向にあります。男女は問いませんので、「消防団に入りたい」「消防団活動を通じて地域に貢献したい」という人は、ぜひご連絡ください。



【問い合わせ先】

危機管理課消防係

☎ 241742

文化財



如法寺仏殿
国指定重要文化財(建造物)
如法寺所有

如法寺仏殿は、禅堂の機能を兼ね備えた珍しい建物で、建物中央部分には御本尊の釈迦如来像を安置して仏殿の空間としますが、その両脇には僧侶が修行するための畳間を備え、禅堂の機能も有しています。

近年、老朽化により損傷が顕著になったことから、平成22年から約4年の歳月をかけて半解体修理工事が実施されました。寛文10年(1670)の創建以来、初めてとなる大規模な修理工事で、より創建当初の姿に近づける工事が実施されました。

建物背面の下屋などもその一つで、修理前は瓦葺の屋根でしたが、創建当初は柿葺(薄い板を何枚も重ねて葺いたもの)だったことが分かり、今回の修理では柿葺で復元されています。

(平成4年8月10日指定)

野鳥



チゴハヤブサ(稚兎隼)
ハヤブサ目ハヤブサ科
全長37cm 翼開長84cm

チゴハヤブサは、北海道や東日本で繁殖して、越冬地に向かうときに大洲でも出会えるハヤブサの仲間です。ツバメを大きくしたようなシルエットで、空中を高速で飛び回り、トンボや小鳥を襲って食べます。時には、河川敷の緑地でバッタを捕るため急降下して来ますが、さすがハヤブサの仲間だけあって、目にも止まらぬ速さで飛び去って行きます。

止まっている姿は、めったに見ることはできません。飛んでいる時の見分け方は、ハヤブサがカラスくらいの大きさなのに比べ、チゴハヤブサはハトくらいのスマートな体つきで、下腹部がオレンジ色に見えるのが特徴です。

ハヤブサ科の鳥は、ワシやタカの仲間とされていましたが、最近になってDNAを研究したところ、実際は全く違った祖先から進化して、同じ様な姿形になったことが分かったそうです。

NPO法人かわうそ復活プロジェクト

新谷藩主加藤家の文化財 第四幕

加藤泰賢（かとうやすまさ）

加藤泰賢は、明和4年（1767）、5代藩主加藤泰官の嫡男として江戸に生まれました。明和8年（1771）、父の死去に伴い5歳で家督を相続しました。

泰賢は、天明3年（1783）、新谷に藩校「求道軒」を創立し、藩士の教育に努めました。駿府御加番、江戸城の幸橋、日比谷口の諸門番など多くの公役のほか、領内で頻発した風水害などによる年貢収入の減少から、1万石という石高の少ない新谷藩の財政は危機的な状況となっていました。

この財政難を打開するため、領内の町や郷の富裕者に対して寸志銀や御用銀と称して藩へ銀の上納を命じるほか、省略令を布達して儉約を命じました。

省略令には、3月の雛飾りや5月の節句飾りなど祝いの行事や風習までも厳しい取り決めがなされるほか、建物の畳替えについても厳しく規制されました。

また、藩士の給与についても、格段に引き下げる緊縮財政とする。ことで財政難を打開しようと図り

ましたが、文化6年（1809）、藩財政は破綻の状態に陥る結果となり、本家大洲藩が5年間新谷藩の政治・財政全面にわたって管理することとなりました。これにより新谷藩は、一時的に藩としての独立機能を停止した状況となりました。

この事態を引き起こした責任を取ってか、藩主泰賢は文化7年（1810）、家督を恒吉に譲り隠居しました。

文政8年（1825）には剃髪して出雲入道と改名すると、翌年疝積（胸や腹などがさしこんで痛む病気）と足痛の持病を抱えていた泰賢は、道後温泉の湯をくみ寄せて湯治を図るため新谷へ引き移りました。

天保元年（1830）、新谷において64歳で没すると、法眼寺に葬られました。



加藤泰賢の墓所

大洲商工会議所青年部 大洲ご当地クイズ

鉄道ファンや、観光客の間で人気急上昇なのが、JR四国が運行している「伊予灘ものがたり」です。運行区間は、松山駅から伊予大洲駅・八幡浜駅間です。

大洲では、大洲城からの旗振りや沿線での手振り、五郎駅での一風変わった格好をした駅長のお出迎えなど、地元の人もそのにぎわいに一役買っています。

大洲に住む私たちこそ、伊予灘ものがたりに乗り、地元の良さを再確認するべきではないでしょうか。

【今月のクイズ】

伊予灘ものがたりが通過する五郎駅。その駅で、一風変わった格好をした駅長がお出迎えしてくれます。どのような格好をしているのでしょうか。

- ① タヌキの格好
- ② キツネの格好
- ③ ネコの格好



【先月号のクイズ解答・解説】

大洲産のクリのブランド戦略事業名は、何と申すでしょうか。

- ① ビッ栗!プロジェクト
- ② 大洲まるごと栗イズム
- ③ 大洲地栗倶楽部

解答…②

解説…クリと言えば伊予市（中山町）を思い浮かべる人も多いと思いますが、実は大洲のクリが生産量は県内トップです。

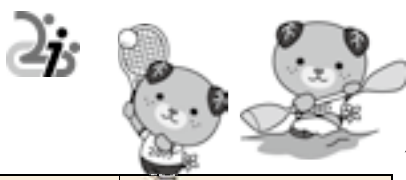
大洲まるごと栗イズムの会では、愛媛たいき銘柄栗を使った料理や菓子の商品開発や試食アンケート、商品化に向けたセミナーや意見交換会などの活動を行っています。

メンバーの1人である富永さんは、「都会の若い人にクリの本当のおいしさを伝えたい」と事業に取り組まれています。大洲のクリを全国ブランドとして、どう特化させていくかが今後の課題です。



※今月のクイズの答えは、広報大洲12月号に掲載します。

えひめ国体・大会を盛り上げよう



えひめ国体開催まであと2年「大洲市開催競技の紹介」
 2017年開催の第72回国民体育大会「愛顔つなぐえひめ国体」において、大洲市では次の競技を開催します。

【正式競技】

競技名	日程	会場
ソフトボール (成年男子)	平成29年 10月1日～2日	八幡浜・大洲地区運動公園野球場
カヌースプリント (全種別)	平成29年 10月1日～4日	鹿野川湖特設カヌー競技場
ソフトテニス (成年男女)	平成29年 10月6日～7日	八幡浜・大洲地区運動公園テニスコート

また、スポーツ振興や生涯スポーツ社会の実現を目的とするデモンストレーションスポーツとして、「カヌーツーリング駅伝」が平成29年8月20日に開催されます。
 なお、国体終了後の平成29年10月28日からは、第17回全国障害者スポーツ大会「愛顔つなぐえひめ大会」が開催されます。
 大洲市では、バスケットボール(知的障がい者)が開催され、市総合体育館で熱戦が展開されます。



これら大洲市で開催される国体・大会の競技会を成功させるため、愛顔つなぐえひめ国体・えひめ大会大洲市実行委員会を組織し、準備を進めています。
 国体PRポロシャツの着用においては、市職員だけでなく、学校や各団体にも協力いただき、気運も次第に高まっています。
 また、市民総参加運動の一環として、市内小中学校では花いっぱい運動も行われていて、国体みきやんも応援に駆け付けた市民運動会では、国体PRブースにプラントーが設置されました。



ALT(外国語指導助手)のつぶやき



ステファニー・マイヤーズさん
 アメリカミネソタ州出身
 1年目
 大洲は、山が多くてとてもきれい。みんなとても親切です。

私が生まれ育ったのは、愛媛県と全然景色が違うアメリカのミネソタ州です。ミネソタ州は、山が全くなく、一番近い海に行くには1,800kmも移動しなくてはなりません。大洲市に来た時、ミネソタ州の景色と全く違ってびっくりしました。
 しかし、山や海がないといっても、きれいな地形がないというわけではありません。山や海はありませんが、湖が1万1千カ所もあります。このため、ミネソタ州のスローガンは「1万湖の国」です。湖はミネソタ出身の人にとって、とても大切なものです。私も一番いい思い出は、湖周辺での出来事です。例えば、毎年夏にスウェーデン語を勉強するために、1カ月間サマーキャンプに行きました。そのキャンプは、大きい湖の近くで行われていたので、友達とよく泳いだり、湖畔でバーベキューをしました。

ミネソタ州と大洲市の景色の違い

ミネソタ州の湖は、夏が一番美しいと思います。子どものころ、毎年7月4日の独立記念日に行われる祭りの時には、近くの湖で行われる花火を見に行きました。そして、もう少し大きくなって、高校の学年末に行われるダンスパーティーは、湖の近くで行われ、写真をたくさん撮りました。また、運転免許試験のために練習していた時には、何回も湖の周りを運転しました。
 今回ALTとして大洲に赴任して、大洲のととてもきれいな景色を見られることをうれしく思います。私は、大洲、肱川、河辺の小中学校を担当しているので、河辺の美しい山、肱川の流れ、大洲の田んぼなどの景色が楽しめます。
 これから大洲市に住んでいる間に、素晴らしい景色と自然をずっと楽しみたいと思います。



9月19日(土)

故郷の夜空を見てみよう ～「星空観測会」～

「地元再発見」をテーマに地域おこし協力隊企画の星空観測会が、肱川あらし展望公園で開催され、児童と保護者約30人が参加しました。

観測会では、愛媛大学天文学研究会の学生が、天体望遠鏡などを使って星の説明をしました。

きれいに見える星空をみんなで眺め、地元の良さを再認識しました。



9月15日(火)

いざという時のために ～河辺老人福祉センター避難訓練～

河辺老人福祉センターにおいて、1階から火災が発生したという想定で避難訓練を行いました。

施設利用者など25人が参加し、通報訓練や避難誘導など役割を決めて実施しました。

参加者からは、万が一に備えて防災意識を高めるとともに、いざという時に慌てずに行動ができるようにしたいとの意見が聞かれました。



9月27日(日)

ボールでつなぐふれあいの輪 ～郵便局長杯レクリエーションバレーボール大会～

肱川町農業者トレーニングセンターで、肱川郵便局主催のレクリエーションバレーボール大会が開催されました。

当日は、13チーム100人が参加し、2ブロックに分かれて予選リーグや順位決定戦が行われました。

選手たちは、白熱した試合を展開しつつも、終始和やかな雰囲気を楽しみました。



9月16日(水)

重いおイモだ よっこらしょ ～上須戒観光いも園 開園式～

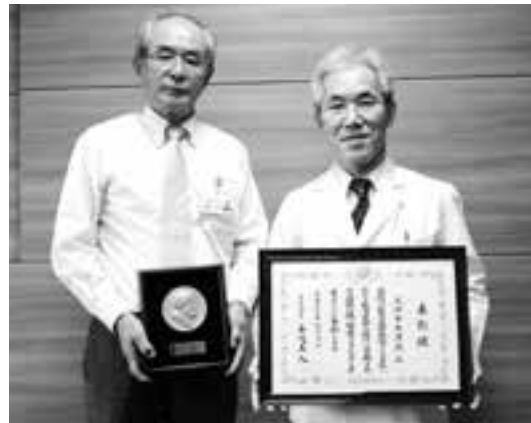
観光事業として9周年を迎えた松久保団地の観光いも園で、今年も開園式が行われました。この日は小雨が降る天気でしたので、関係者により園内の一部にビニールハウスが設置されていました。

招待された喜多保育所児童16人は、歓声を上げながら次々と大きなイモを掘り当て、上須戒の秋の風物詩を楽しんでいました。

大洲中央病院が厚生労働大臣表彰を受賞

9月9日(水)、大洲中央病院が平成27年度救急医療功労者厚生労働大臣表彰を受賞されました。

この表彰は、長年にわたり地域の救急医療の確保、救急医療対策の推進に貢献した医療機関などの団体や個人の功績をたたえるもので、大久保啓二院長は「開院以来42年間、救急認定病院として大洲喜多地域の救急・急性期医療を担ってきた努力が評価されうれしく思う。今後も地域医療へのさらなる貢献を目指し、より一層努力したい」と喜びを語られました。



長浜大橋を生かして新たなまちづくりを

長浜大橋の国重要文化財指定を記念して、9月27日(日)、市長ふれあい会館でシンポジウムが開催されました。

第一部として、重文指定までの道程や、長浜大橋の価値および保存活用などについての基調講演が行われました。第二部のパネルディスカッションでは、長浜大橋を核としたイベント案などについて話し合われました。

さまざまなアイデアが出されるなか、第二部後半には清水市長が飛び入り参加し、今後のまちづくりなどについて議論が交わされました。



3つの味を 食べ比べ ～日本三大いもたきサミットinおおず～



9月26日(土)、肱川緑地公園で「日本三大いもたきサミットinおおず」が開催されました。

旅行雑誌で、山形県中山町の「芋棒煮」、島根県津和野町の「芋煮」、大洲市の「いもたき」が「日本三大芋煮」と紹介されたことをきっかけに、昨年の中山町でのサミットに引き続き、今回で2回目の開催となりました。

ステージでは各市町長がそれぞれ自慢のご当地芋煮をアピールし、その歴史や文化、味の特徴や地域での楽しみ方などを紹介しました。

3種の芋煮を無料で1度に食べ比べできるとあって、午前10時の整理券配布開始前から会場には長蛇の列ができていました。各市町から参加したスタッフが手際よく器に盛り付け、用意された3種の芋煮セット1,500食分と元祖大洲のいもたき500食分が、盛況のなか振る舞われました。

この日は、お笑いコンビ「バンビーノ(石山大輔さん 八多喜町出身)」の帰郷公演や「愛の葉ガールズ」による音楽ライブも行われたほか、各県の特産品販売や市内業者による飲食・物販ブースが立ち並び、秋晴れのなか訪れた約8,000人を楽しませていました。





この顕彰は毎年行っているもので、今年は大正5年生まれの人を対象としています。
関係者は7人の対象者一人ひとりと懇談し、記念品の贈呈などを行いました。対象者のひとりである、新谷在住の宮元マサ子さんを訪問した清水市長は「元気で、しっかり話もされて、自分たちも見

おめでとーございませう 平成27年度数え年100歳訪問

今年で数え年100歳を迎える市内の長寿者を顕彰しようと、9月25日(金)、清水市長と関係者が対象者の自宅や施設を訪問しました。



習いたい。ぜひ大洲市の最高齢を更新してください」と話しました。
おかゆではなく白米をしっかりと食べ、特に肉や果物が好きで、嫌いなものが無いことが元気の秘けつだという宮元さんは、「耳が少し不自由になりましたが、自分のことはなるべく自分でするようにしています。今日はこのようにお祝いしていただき、ありがとうございます」と述べられました。
今後も大洲市では、高齢者にも住み良いまちづくりに取り組んでいきます。

第27回わらじで歩こう坂本龍馬脱藩の道

9月26日(土)、「龍馬を語る夕べ」が昨年に引き続き、演歌歌手の大林幸二さんをゲストに迎え、河辺ふるさとの宿で開催されました。

「大林幸二さまぐれ歌謡ショー」と題した第一幕では、「奔れ！龍馬」をはじめ歴史を題材にした歌や軽快なトークで、会場は大いに盛り上がりました。最後には「奔れ！龍馬」を参加者全員で歌い、翌日の完全踏破に向け気持ちを一つにすることができました。

27日(日)には、「第27回わらじで歩こう坂本龍馬脱藩の道」が開催され、河辺ふるさと公園で行われた出立式

では、参加者代表の力強い完全踏破宣言が行われました。その後、大洲藩鉄砲隊の出立の祝砲を受けて、龍馬役を先頭にスタートしました。

雨が心配される空模様でしたが、スタート時には雨も上がり、約250人の参加者はAコース（榎ヶ峠～泉ヶ峠）とBコース（河辺ふるさと公園～泉ヶ峠）の2コースに別れ、涼しい風が吹くなか、約150年前に坂本龍馬が脱藩した河辺の道をそれぞれの思いを込めて歩き、すがすがしい汗をかきました。

